

第10回軽井沢町総合教育会議 会議録

1. 開催日時：令和7年3月27日（木） 午前10時から
2. 開催場所：中央公民館 講義室A・B
3. 出席者：軽井沢町長 土屋 三千夫（土屋町長）

軽井沢町教育委員会 教育長	宮本 隆（宮本教育長）
教育長職務代理者	佐藤 一郎（佐藤職務代理）
教育委員	本城 慎之介（欠席）
教育委員	鈴木 淳子（鈴木委員）
教育委員	藍原 尚美（藍原委員）

事務局：寺島 乾士（総合政策課長）

岩井 和成（こども教育課長）

市村 和則（生涯学習課長）

金井 章宏（こども教育課長補佐兼学校教育係長）

南雲 範子（児童係長）

小川 恭子（子育て支援係長）

金井 拓也（軽井沢高校・教育魅力化推進係長）

山浦 真理（学校教育係）

柳原 智子（児童係）

議題（2）の説明のための出席者

軽井沢中学校長 山崎 伸一（中学校長）

軽井沢東部小学校長 川崎 圭一（東部小校長）

軽井沢中部小学校長 阿部 純（中部小校長）

軽井沢西部小学校長 久保 貴史（西部小校長）

進 行：岩井 和成（こども教育課長）

4. 議題

- （1）軽井沢「こぶし教育」を具体化する教育一貫独自プログラムについて
- （2）軽井沢町の教育の現状等について
- （3）第3期子ども・子育て支援事業計画について
- （4）軽井沢オーパンドアスクール（仮称）について
- （5）その他

5. 傍聴人数 7名

6. 議事内容

1. 開会

【こども教育課長】

定刻となりましたのでただいまより、第10回軽井沢町総合教育会議を開催いたします。開催にあたりまして、軽井沢町総合教育会議設置要綱第6条の規定により、総合教育会議は公開するとなっております。しかし、個人の秘密を保つため必要があると認めるときは、同要綱第6条の規定のただし書きにて一部非公開といたしますのでよろしくお願いいたします。

それでは、次第に則り、進めさせていただきます。初めに土屋町長よりごあいさつをお願いいたします。

2. 町長あいさつ

【土屋町長】

みなさん、おはようございます。年度末でご多忙のところお集まりいただきありがとうございます。先週、町立の小中学校の卒業式が行われ、そして今週25日に、町立保育園の卒園式が行われました。現在は来賓参加者の縮小や、時間の短縮を行い、園児、児童、生徒のための新しい形式での卒業式・卒園式を実施いたしております。また、これから行われる各保育園の入園式、各小中学校の入学式も同様に行ってまいります。

さて、この「総合教育会議」は、教育委員会と首長との連携強化を図ることなどを目的に、平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正」において、すべての地方公共団体に設置するとされております。このことによりまして、軽井沢町総合教育会議設置要綱に基づき、今年度で第10回目の開催となります。

本日の議題は、「軽井沢「こぶし教育」を具体化する教育一貫独自プログラムについて」ほか3件の議題にご審議をいただくこととなりますので、皆さんの忌憚のないご意見をいただければと思います。本日はよろしくお願いいたします。

3. 議題

(1) 軽井沢「こぶし教育」を具体化する教育一貫独自プログラムについて

【こども教育課長】

ありがとうございました。それでは早速ですが、3の議題に入らせていただきます。(1) 軽井沢「こぶし教育」を具体化する教育一貫独自プログラムについて、宮本教育長より説明お願いいたします。

【宮本教育長】

着座にてご説明いたします。資料ですが、実は第1回オープンドアの設置準備会議に使用した中に町の教育ということで、資料5としてあります。このため取り扱いにご注意くださいとなっていますので、ご承知おきください。

この資料の中に今説明がありましたように、こぶし教育を具体化するとありましたけれども、実際に今までこぶし教育に基づいて、その方式に基づいて、具体的なことを色々やってきております。これが新しいことというわけではありませんけれども、それを可視化する、概念図を作るというところが新しいところであって、そのことによってこぶし教育の実践という部分を、すべての方にご理解いただく、あるいは簡単にご理解いただくという方向で、冊子を作っております。見開きのところは1番下にありますように今までのこぶし教育の趣旨、平成29年9月に改定された教育委員会から出したもので、右側の方にこぶし教育7つの基本方針、それを少し具体化するための方策というものが7つ載っています。その中には例えば(2)番における町内幼保小中高校が連携、あるいは軽井沢学とか、あるいは(4)番にいじめとか、不登校の解決に努めとか、そういったことがいくつか書いてある。それを、今までやってきている具体的な施策を落とし込んでいって、図をつくってみたら、こうなるんじゃないかということが、次の見開きのところで、概念図ということで、3つの教育一貫独自プログラムということで、示したところであります。実際、中に書かれていることは、今はまだちょっと具体化されていないことを若干含むことをご承知いただければと思います。この中で一番中心的なものは、真ん中の軽井沢学ということになります。この軽井沢学という言葉は今までも使ってきたわけですがけれども、今回少しその概念を広げてみようかということを考えておりまして、真ん中の上に書いてある軽井沢学の下に、町の豊かな自然、歴史文化、人材等から学ぶ独自のカリキュラム体制と書いてありますけれども、今まで軽井沢学というと、子どもたちが軽井沢の歴史、文

化を学ぶというところの学ぶという、どちらかというと受け身の学びという部分が強調されていたんですけども、さらにもうちょっと広げてですね。自然とかスポーツや人材とか、町にある人、ある特徴的な文化とかっていうものを活用してあるいは利用して、そういう人たちに指導してもらってという部分を含んだものを、軽井沢学というふうに再定義することがいいんじゃないかというふうに考えております。したがって、その図の中の一番下のところに枠がありますけども、4つポツがありますけども、町が誇る教育資源、自然歴史文化、人材等を活用した学びや体験。ですから、学ぶことは軽井沢とは関係ないかもしれないけれども、軽井沢にいる皆さんから教わるとか、あるいは軽井沢の中に出かけて体験するとか、そういった部分を軽井沢学というふうに、軽井沢での学びというふうに考えていただければいいんじゃないかというふうに思っています。従いまして、その一番下のところ、2つ目のポチですけども、町を学ぶ。これは今までの軽井沢学ですけども、その他に町で学ぶ町に学ぶを総称して軽井沢学と定義した方がよろしいじゃないでしょうかということで、そのためには、学校外の施設とか、人材と連携する、コーディネートとすることですので、実際に今までとちょっと違いますけれども、真ん中の一番下に軽井沢高校・教育魅力化推進係。軽井沢高校だけでなく、軽井沢町の教育を魅力化して行くと。その中に配置している例えば、カッコの中にありますように、教育魅力化専門員を置いてコーディネートして行くと。各学校だけに任すような体験です。というような形で、軽井沢学を中心とした幼保小中高の一環と言いますか、そういった方針と言いますか、そういったものを核にして、そして右側と左側はそれぞれSS支援スクールサポーターですけども、右側の方は、複数人のスクールサポーターという縦の右端の太い矢印ですけども、今までは、スクールサポーターが2名体制でしたけども、本年度から3名体制になり、4月からは4名体制になりますので、小中に一校に一人配置、実際に配置することではありませんけれども、そういった形で、複数人のスクールサポーター、専門職です。臨床心理士の資格を持っているものですので、継続的な支援、とそこに書いてありますけども、生まれた子どもから幼保小中高に至るまで、そのSSが町内の状況をほぼ全て把握して、一貫して、支援とか相談とか、積極的な支援に臨んでいくっていうのが、右側で、その左側はDX、町がDX宣言していますので、教育部分についてもICTを適切に使っていくということ、そのICTが紙かということ意義大半ではなく、いい面を使っていくということで、子どもとか先生にも望まれる教育体制を作っていきたいというものの左側に書いてあります。こういった形

で、軽井沢学を中心として、ＳＳ支援とか教育ＤＸが軽井沢学を補完していく。そして、一番下のところの青い枠で囲まれた白抜きの字ですけれども、その軽井沢学が地域の誇れる教育資源というものを、活用したカリキュラムで、２行目に軽井沢っ子を育てて、軽井沢愛を育み、軽井沢学を磨いていくと。その核である軽井沢学をＳＳ支援と教育ＤＸが支えていくというような形を可視化したと言うものであります。

これがまあ独自プログラムですが、最後の裏のページですけれども、忘れてはならないのは、小学校中学校高校基本的にはやらなきゃいけない、教育課程というものがございまして、その教育課程というものが、こういうものだということがある程度俯瞰してわからないと、こういった独自プログラムだけでは、なかなか学校現場の中でも難しいものですから、それをある程度概念図の中に落とし込みましたのが裏側の図であります。こういった形で、こぶし教育を今までやってきたものを含めて、可視化するひとつの図を作ってみたと言うところが、このパンフレットで、あるいは独自プログラムだと思います。まだこれは案の段階ですので、ご留意いただければと思います。以上です。

【こども教育課長】

ありがとうございました。ただいまの説明が終わりました。ご質問や意見等ございましたらお願いいたします。

【委員】

基本的なことで大変申し訳ないですが、これはどういう形で町の方が見ることができるんですか？

【宮本教育長】

今のところの予定は、パンフレットを作る。例えば真ん中の軽井沢学は自分たちが作れるソフトを使って作っているので、本当はこれは螺旋形の立体を創りたいと思ったんですけど、技術的にできないので、業者に発注してパンフレットを作る。そしてホームページに掲載するというような形を想定しております。

【委員】

これは町の一般の例えば、保護者の方、地域の方が見るという前提なんですよ。

【宮本教育長】

基本的にはそうです。

【委 員】

拝見して、町の学校教育、こぶし教育という言葉の中で、これだけのことを学校で、町でやってくださってるんだっていうのが分かって、ものすごく感謝の持ちでいっぱいなんですけれども、一方で、町の方にこれをわかりやすく伝えるということ考えた時にちょっと情報量がとても多すぎるのではないかというふうに感じまして。なので、ビジュアルで示すということもそうなんですけれども、可視化ってすごく大事だと思うんですけれども、見た方が、一般の保護者の方がパッと見た時に伝わるようにしても、こう表現にしても、少しご検討いただくといいのかなというふうに思いました。以上です

【宮本教育長】

はい、わかりました。今、一般の方と申し上げましたけれども、もうひとつ実は対象がありまして、専門職つまり、他市町村の先生方とか教育委員会とかそういった方に対して、町の教育行政の一端をお示するという側面もありますので、ただ単に町民の皆さんにお知らせするという目的だけではないということも、ご承知いただければと思います。ちょっとその部分も考えてみたいと思います。

【こども教育課長】

ありがとうございました。他ご意見ございますでしょうか。はい、お願いします

【委 員】

大変いい考えだなというふうに思うんですけど、特に今、全国教育関係でもコミュニティスクールということで、各都市の歴史とかを肌で感じる。そういうものを学んでいくっていうのが、やはり良いんじゃないかなというふうに思いますので、この点はこれからどういうふうに具体的に授業に取り組んでいくかそういうところを進めていくか、ちょっと計画的なこれ案の段階ですけども、あの非常にいいなという風に思うんですけど、どんな感じですか？

【宮本教育長】

はい、案はですね、案はこのパンフレット自体が案であって、中身はもう既にやっていることのことですので、これを案として、これから実行していくではなく、右上に書いてある平成7年3月現在案というのはですね。この全体の概念図が案なんです。ということですので、これ全てではない、先ほど申し上げましたように今までこぶし教育の中身をやってきているというものを落とし込んでいるだけであって。実際にすでにやっていることがほとんどということですので、今こういう風にやっているというふうに考えていただければということです。

【委員】

はいわかりました。まあ特にあの先ほど言ったように地域の歴史とか、文化とか、そういうものを肌で感じていく、特に軽井沢高校の場合、子どもたちが素晴らしい校歌を持っているわけですね。軽井沢高校の校歌は室生犀星が作詞した。旧道の二手橋の方に室生犀星先生の碑があるわけですけども、子どもたちが率先してきれいに掃除しようと、自分たちの学校の歴史を学ぶということを実践していますので、いい勉強になってくるのかなという風に感じております。

【こども教育課長】

ありがとうございました。他ご意見ございますでしょうか。

【委員】

今まで、こぶし教育について、表向きのパンフレットは、配布されていたわけですが、イコール軽井沢学みたいな形のアバウトな部分もあったりもしたんですが、新しく学校に赴任される先生とか、教える側の方の立場からいうと、こういう基に、こういうものがあって、こういう工程で、こういうものがあってというものをもう1回こういう形にして、だからこうなんだということが分かりやすく、これを読み込んでもらえば自分の教育として、どうしていくかっていうことが、本当はこれなんだって、ことを、もう1回軽井沢町として教えていくのに良いのではないかと感じました。

【こども教育課長】

ありがとうございました。他によろしいでしょうか。それでは、この件につきましては以上とさせていただきます。

続きましては（２）軽井沢町の教育の現状等につきまして、軽井沢町総合教育会議設置要項第５条に基づき、学校長より説明をいたします。説明は、中学校、東部小学校、中部小学校、西部小学校の順でお願いいたします。

【中学校長】

軽井沢中学校長の山崎伸一と申します。日頃より本校の教育活動にご理解をいただきまして、また多大なるご支援をいただきまして、本当にありがとうございます。それでは中学校の現状についてお話をさせていただきたいと思います。資料等ございません。口答になってしまいますが、よろしく願いいたします。本校は学校教育目標を知力と体力にあふれ、心身ともたくましい、心豊かな生徒の育成。サブテーマとしましては、すてきな軽井沢人になろうということで行っております。重点目標は人間力の向上、それを具体的に行うために、４つの重点活動を行っております。

１つ目はあいさつ、２つ目は清掃、３つ目は合唱、４番目は自ら学ぶ、友と学ぶ、いうことでございます。

これらを重点活動としながら、生徒１人 １人の人間力の向上を目指しております。

さらに、本年度は本校、アウトプットというのを大きなテーマとして、授業改善を行ってきました。例えば、今年で言いますと先ほど来出てきております。軽井沢学、今までは文化祭の中で限られた お子さんだけが発表していた場面があったんですが、今年からポスターセッションという形で、すべての子が発表するということを企画いたしました。発表の仕方とか表現方法についてはまだまだ改善の余地がありますが、せっかく身につけた力を自分の言葉で書いたり、言葉で発したりすることは、子どもたちにとっても、非常に力がつく活動ではないかというふうに思っております。また、日頃の授業実践、いろんな教科で行われているわけですが、私は社会科ですの、社会科の授業の中で、今年スチューデントティーチャーという形で、授業を行ってきました。これは単元の終わりのところで、生徒たちが、自分たちが学んだ歴史や地理や公民の中身について、自分なりにテーマを決めてですね。このことについて全体の中で発表するという。そんなことを今年から行っております。ご存知のとおりラーニングピラミッドっというものがありまして要するに聞いたりしているだけでは、すぐ子どもたちに学力がつくわけではなくて、記憶も薄れていってしまいます。

そうではなくて、生徒が自ら考えたり、中には教えるっていう行為をすることによって、学力がつくという、そんな視点から、社会科の先生方中心に、スチューデントティーチャーというものを行いました。子どもたちも本当にその場面を見たんですけども、生き生きとしながら、普段は座って先生の話を聞いたり時には子ども同士で考え合う場面があったんですけども、自ら黒板を背にしてですね先生のようになって、みんなにそのことを説明するということは非常に良い活動だったというふうに考えております。

一方で、課題としましては、不登校の問題が挙げられます。3月末で30日以上欠席の生徒が50名強おります。中には全く登校できていない子は、そのうち2名ということでございます。言い換えれば、学校とのつながりとか、先ほど宮本教育長の中にもありましたが、スクールサポーターという方と繋がったりしておりますし、他の機関とも繋がっているというそんな中でございます。ただ一方、今、高校入試制度が今年から大きく変わり、調査書の中身の中で、出欠席の項目が今年から取り払われました。ということで、出欠席が、可否と直接大きく係わるということがないということ、県教委の方が大きく打ち出したのかなというふう捉えております。一方で今年卒業した生徒の中で、通信制に進んだ子が11名おりました。というふうに、本当に近年高校の進学に関しても、通信制というものも、非常に増えてきているということでございます。あの軽井沢中学校としましては、地元の軽井沢高校の方に進学し、魅力的なカリキュラムを組んでおりますので、もっともっと軽井沢高校と連携を深めながら、子どもたちが自分らしく学べる軽井沢高校で学べるようにまた、学校としても、中学校としても協力をして行きたいなというふうに思っております。最後になりましたが、来年度につきましては、フィードバックというものを柱にして、授業改善、生活向上を図りたいなというふうに思います。要するに、授業の最終の場面で、子どもたちがこの時間にどんなことを学んだのかということ振り返るというのがフィードバックという風に捉えております。どんなことがわかった、どんなことがわからなかった。わからなかったことをどういう風に解決したらいいかということ子ども自身が考えていく。子どもはそこで考えた中でそれを自宅に持ち帰って、自主学習という形で学びを深めていく。教師は子どもたちがわからなかったという何がわからなかったってことをしっかりと捉え、見届けていく。それをさらに授業改善の場へと繋げていく。これは授業だけではなく、すべての生活の場においても同じです。1つの行事をするにしても、きちんと目的や狙いがありますので、そのことについてどうで

あったかということ子どもたちが振り返る。じゃあ次もっといいものにするためには、どんな改善点が必要なのかってことを是非行っていきます。また、日頃の子どもの生活記録というのを書いてあるわけですが、これもある意味で言うとフィードバックに繋がるのかなと思います。次の日、よりよい生活を送るために、どうしたらいいかということを考えていく。そんな形で来年度軽井沢中学校を進めていきたいと思いますので、今後ご支援、ご理解のほどよろしくお願いいたします。軽井沢中学校から以上でございます。ありがとうございました。

【東部小校長】

軽井沢東部小学校の校長の川崎圭一と申します。どうぞよろしくお願いいたします。日頃より本校の学校教育にご支援ご協力いただきまして本当にありがとうございます。本校ですけれども、学校教育目標ですけど、風土に恥じない爽やかな人になれ。優しく、かしこく、たくましくというのを教えております。軽井沢のこぶし教育の理念を受けまして、軽井沢に育つことの自信と喜びを持ち、一人、一人かけがえのない人として、自分を大切に、多様性を認める。他の人も尊重できる人。友と学びながら主体的に学び、地域から学ぶ人。物事にねばり強く取り組むことができるたくましい気力と体力にあふれた人に育つことを願っております。

そして重点目標として、自分で作るみんなで作るというのを打ち出して、自らをコントロールする力であったり、他者と繋がる力、新しいものを作り出す力というものについて、子どもたちと一緒に教育を進めております。本校の方で今年度も大切にしている取り組みとして、3つの柱があります。

1つ目が集団作りとしまして、対話であったり、異年齢の交流というものを行っております。本校探求小規模校でありますので、その強みを活かして、学校全体での交流、異年齢交流という活動になりますけれども、それを定期的に行っていった多様性を認め、互いの違いを認めて、仲間と共に成長できる子どもの育成というものを進めてきました。縦割り班活動というのがありますけれども、年間を通して行い、子どもたちや他学年の仲間と一緒に遊ぶっていうようなことを行っております。

本校は小規模ということですので、対話というものを大切にしまして、子どもたちの対話を充実させて、子どもたちの自己肯定感、自己有用感の高まりや相手の困ったという思いを受け入れるから支えるというようなこと、そういうような子どもたちの成長を促してきました。

2つ目の柱ですけれども、2つ目は授業づくりということで、やってみたいものということを、大切にしたい学びの充実、まあ探求という言葉になってきます。あと個別共同的な授業作りを行ってきました。子ども同士と学び合う授業を実践し、教室内で一斉授業では学習に参加できなかった子どもたちが前向きに取り組める姿が見られるようになっております。その学びを学校全体の学びに広げて、誰1人取り残すことない、すべての子どもたちに学びを保障するということを目指して、自分作りの方を進めてきております。

3つ目の柱としまして、体作りということであります。自分の学びを自分で作り出す学習、それから児童会活動などを推進しております。心身ともに健康で粘り強くやりぬく子どもたちの育成に向けて、異年齢交流を重ねたという東部っ子タイムを行っておりますけれども、子供どもたちが自分から遊びやいろんなものを工夫するそういうような機会を設けております。健康な体作りに加えて、子どもが自分で計画して実行する学習活動を校内で仕組んで支援しております。

本校今年度関わって、新たに取り組むという形で、今年度1つ目から運動会のところでは、児童会の方で縦割り班対抗の全員リレーということで、1年生から6年生までが参加するというリレーを今年初めて行いました。

それから音楽会では低学年の発表だけでなく、クラブ、本校のところには、4、5、6年生全員が参加する6つのクラブがあるんですけれども、その中からダンスクラブと大正琴クラブは自分のやってきたことを発表する。アートクラブとかパソコンクラブは装飾であったりとか、プログラムであったりというので協力することをしてきました。あと縦割り班で遠足に行くということも今年度計画をして実施しました。あとはランチルーム給食ということで、本校ランチルームに全校児童120人ちょっと集まりまして縦割り班に分かれて給食を取るということも2学期、3学期に継続して行ってきました。あともう1つ活動祭、今までは委員会ごとの活動だったんですが、今年度はそれを縦割り班での開催にして、1年生から6年生までが企画運営を行うということもやってきました。そういうようなことで本当に1年生から6年生までが一緒に関わって一緒に話をして、一緒に計画を立てて、一緒に楽しむということ年間通じて行っていました。ただ本校の課題としても、人数が少ないということがありますので、どうしても1つの関わりを固定化してしまうということがあります。また、その固定化したことが原因で、不登校になっているという子どももいますので、そのところは本当に本校としては大事にしながら、子どもたちとの関わりという

こともこれからもしっかりと見て行きたいなというふうに思っております。来年度につきましても、今行っていることを継続的にいき、それから児童会、子どもたちのやってみたいというものをどんだんだんだん全校に広めていきたいなという風に思っております。自分で考えていろんなことを自分で探求して行くというようなことを来年度目指して行きます。はい以上になります。

【中部小学校長】

軽井沢中部小学校長の阿部と申します。よろしくお願いします。いつも本校を支えていただき、ありがとうございます。

私からは本年度力を入れてやってきて、一定の成果を上げたこと2点。課題と具体策について2点お話しさせていただきたいと思います。

まず、本年度力を入れてやっていたことの1つとして。表現発信を通したウェルビーイングの実現という重点のもと、自分の好きや楽しいが個々に探求できるそういう時間学習を大切にしてきました。I U C H U B U（いう ちゅうぶ）という名前で、年間10回程度子どもたちが個々に自分の興味関心がある好きなこと楽しいことを発表する場を作っていました。大きな体育館に自分だけのブースを作って、そこで自分のことを表現して、それぞれ全校が、自分の行きたいブースに行って、そこで聞いたり、一緒に参加したりっていうそういう時間をもってきました。表現すること、発信することを通して、学校に来たくなった子も大勢いましたし、大きな学びがありました。このことについては、本年度町で行っていただいた表現コミュニケーションの授業を5年生がやったんですけれども、そこで学んだ子どもたちと職員の意識改革っていうか、そういうことができるんだっていう大きな1歩になったと思っております。感謝しています。2つ目です。フォームのDX化が進みました。これについては、具体的には児童や保護者対応への情報共有がシステム化しました。また学校にはたくさんの会議があるんですけれども、会議の前に個々の職員の考えをチャットで話し合っておく。で、参集しての会議はもうそのチャットの内容を踏まえた上での会議になりましたので、時間の削減になりました。このようなICTを活用した業務改善が進んだ結果、先生たちに時間的なゆとり、精神的なゆとりができて、その結果、児童と向き合う時間やゆとりが増えた。子どもとの関係が良くなったというか、そういう子どもへ向き合う時間が増えたというところがとても、良かったかなということをおもっています。

課題と具体策についてです。課題の1つ目は、本校は首都圏からの転入者が増加しております。ここ数年20前後の転入が毎年あります。

その結果、多様な考えを持った保護者、児童、要望のある保護者や児童がいます。大変学ばせていただくことも多いんですけれども、担任が1人でその対応にあたるということに、少々限界を感じております。そこで来年度はチーム担任制をシステム化して、学年の職員3人プラス町費でTT講師を3名配属していただくことになったんですけれども、また県費の加配職員も含めまして、チームで子どもたちを見る担任だという意識で、進めていきたいと思っています。具体的にどうするかということについては、現在職員と話し合っている最中であります。そういう対応することで、あの多様な考える要望にできるだけ沿って、学校経営を進めていきたいと思っています。それから2つ目の課題なんですけれども、個々の探究学習のさらなる充実です。自分の好き、楽しい得意なものを通したウェルビーングの実現をさらに図っていきたいと思います。今年度ISAや中保育園との交流もさせていただきましたけれども、軽井沢学にもっともっと寄せたそういうものもあっていいかなということも思っています。

具体的には、探究学習だけではなく、インクルーシブ教育、個々の学びを尊重するインクルーシブ教育、それからICTの活用、この3本立てで、このウェルビーングの実現ということについても、推進して行きたいと思っています。

いずれにしても、もっともっと子どもに委ねることをキーワードにして、子ども主体にして子どもとともに学校を作っていく。そんな1年間にしたいと思っています。来年度中部小学校70周年となります。そんなことも含めまして、職員一同頑張っていきたいと思っています。以上です。

【西部小校長】

軽井沢西部小学校長の久保貴史と申します。

私の方からは2点子どもに関わってと保護者に関わってということでお話をさせていただきます。一点目ですけれども、子どもに関わってくことで、本校の教育学校目標は自分で考えるみんなで作るでございます。今年度いくつかある重点の1つに探究というものがあまして、自らそれを持ち考え行動するというものがあります。それに関わりましては、今年度個人探究、2年目になりますが、3年生から6年生、興味があって自分たちで調べたいと思うこと、例えば、自分が今やっている

スポーツに関わってとか、軽井沢の動物ですとか、植物に関わって、そういったことを調べ、最終的には、保護者に発表とするという、そのようなところがありました。また、５年生、６年生は軽井沢高校生と交流しながらお互い発表してあうなんということもやりました。その甲斐がありまして、自分の考えを持って考えをうまく伝える。それで工夫する、そのような力ってというのが動いてきているのかなと感じております。一方で課題と致しまして、全国学力学習状況調査を児童生徒質問紙の中で、自分には良いところがあるというような質問項目がございますが、ここ近年、数年なんですけれども、肯定的な回答が、若干全国より低いかなというようなことがございます。この自己肯定感を持つということについて、もう少し工夫していく必要があるなというのを感じております。今年度児童会でタレント賞というものを企画しまして、子どもたちがバレーや 空手、歌などをみんなの前で発表するというような企画がございました。とても有意義な時間でしたし、まあ発表する側、受け取る側、それぞれ効果があったのかなということで、来年度自己肯定感を高めるということで、自己決定ということの一つキーワードにして力入れて行きたいと思っております。

２点目、保護者ＰＴＡのカバンについてでございます。今年度保護者ＰＴＡさんの方でサークル活動を立ち上げました。１つは、読書、読み聞かせサークル、もう１つは八風山の登山に関わったサークルでございます。いずれも持続可能なその保護者と、学校との連携、例えば、そのサークル活動というのは、お子さんが卒業した後にもサークルのメンバーとして学校行事に関わってくださるということが可能になってきます。そのようなことも、今年度始めましたので、そういったようなところまた保護者と連携しながらの学校づくりというのを、来年度また考えてもらいたいと思います。以上でございます。

【こども教育課長】

ありがとうございました。それではここでご質問ございましたら、お願いしたいと思います。

はい、どうぞ。

【委員】

各学校でのＰＴＡ活動についてということで、発表がありましたけれども、我々の時代ってというのは、ＰＴＡ活動ってのはもう即加入ということだったんですね。今は

色んな転入者とか、そういうものが多くて、先日ＰＴＡの活動・加入についてアンケートを実施したと思うんですけども、各学校の方で加入状況アンケートをわかる範囲で教えていただきたいかなというふうに思います。

【中学校長】

中学校ですけれども、教育委員の藍原教育委員は来年ＰＴＡ会長ですので、そちらに聞いていただく方が、中学校のことはわかるかと思いますが、今年に限っては、今年というか今年はほぼ入っているという状況です。来年度以降はちょっと任意団体であるということで、どのようなアンケートを取るかというところで、考え検討しつつ、踏み出そうとしているところです。詳しくは藍原委員に聞いてください。中学校からは以上です。

【こども教育課長】

はい、それではお願いします。

【委員】

はい、まずはＰＴＡは任意団体であるということを前提として、あのこの任意性というのを明確にしていけないといけないだろうということを昨年、年度の初めに役員の中で確認をしました。ただ、そこについて、こう会員の皆さんに、きちんとＰＴＡの活動の趣旨だとか、活動の状況をお伝えしない状況で任意なので、自由に参加をしなくても参加をしてもいいんですよという意向の確認の仕方をする中で、たくさん退会が出てしまって、活動が維持できなくなって、ひいては子どもの生活をサポートすることができなくなるということが懸念されましたので、昨年１年間でＰＴＡの活動についてのご意見をまずアンケートを取ってお聞きして、その上で活動は任意ですという前提で、退会を希望する方は、退会の手続きを取っていただくことができますと。もっともそのＰＴＡの活動っていうのは究極的には自分の子どものために社会の子どもみんなをサポートするという活動であるので、そこに協力をしていただきたい。ご理解とご協力をお願いしたいですよという形で、意向の確認をしまして、現時点で退会の手続きを取られた方が、１割に満たない位の数、家庭数全体で見て、新１年生を含めて、新２年生、新３年生の家庭数のおそらく１割弱位、１割に満たない位という状況です。今後も引き続きＰＴＡの活動の見直し、効率化も含めて、一方

で、子どもサポート、子どもの学校生活をサポートする活動ができるように検討続けていきたいと思っておりますのでご協力のほどよろしくお願いします。

【東部小校長】

軽井沢東部小学校ですけれども、東部小学校のPTAにつきましては今年度のところでPTA会長さんの方で、進めていただきまして、PTAの改革を行ってきました。今までのPTAの中で本当にいらないものを全部削って、それで簡素化することと、それから子どもにとってとても必要なものと、それから希望者でいいんじゃないかというようなものも含めてPTAの会費であったりとかそういうものもすべて見直しをしましたので、来年度はPTAにつきましては本当に会費を300くらいのものにしました。ただ、他のものについては、PTAに親が入っている入っていないに関わらず子どもに関わるものだということなので、各1人当たり600円の保護者費というようなことで、これは、全員からもらいますということで、改革しております。PTAは任意団体ということになりますので、それについてはアンケートをまず取ります。今年度もこれもまだ新1年生はありませんけれども、それ以外の9割ちょっとの方が参加をしてくださるということでもあります。ただ入っていない方につきましても、PTA会費とは別に保護者会費っていうものをいただくので、活動については、つつがなく進んでおります。あとは、今まで何てうか、何々委員とか何々部で行ってた活動をボランティアの方でやって行きましょうということで、読書のボランティアであったりとか、あと運動会の時のボランティアであるとか、その場でできるときにできることををいうことで声をかけて行うような形になっています。はい、以上です。

【中部小校長】

軽井沢中部小学校は今年度初めて加入の意思を取りました。その結果、来年度は87%の方が加入ということで、進んで行きます。以上です。

【西部小校長】

軽井沢西部小学校ですけれども、来年度はまだ結果はわかりませんが、今年度は9割5分位の方が入っておられます。以上です。

【委員】

はい、ありがとうございました。ほっとしてるんです。あくまで任意団体ですけども、やはりPTA活動というものは子どものためにやるものだというのを、PTAの皆さんね理解していただければいいかなというふうに思っております。ありがとうございました。

【こども教育課長】

他にご質問ございませうか。はいどうぞ。

【委員】

質問というよりは、また少しずれてしまうかもしれませんが、家庭学習についてお聞きしたいのですが、児童館それから放課後こども教室の学習の方針が、また多少変わるということで、自主性をとても大切に学習ということで、今までいた学習アドバイザーがいなくなるということなんですが。その家庭学習のあり方を今まで手引きとかいただいていたんですが、学校の学習の復習したその学習の定着としてなのかっていう部分、または家庭学習、家庭で勉強するっていうその姿勢の習慣化なのかまたは、あの自主性を大事にして、自分で探求してきたり求めてきたものを町学っていうか、そういう形で家庭でもするのか、色々なその学校教育の方針に沿って。出されるんではないかと思うんですけども、ただ、保護者の方にね、宿題出して欲しいなっていうお家の方がほとんど。ただ遊んでいるばかりでは困るみたいな。お家の方の直な気持ちも聞くんですが、そうした時に説明を、今度何かこの児童館でちゃんとしてこないのみたいな。宿題にしても家庭学習にしても最終的に確認するのは、お家の方だと思うんですね。あと、担任の先生方が どういうことで、これを出してるのかなって、たまに、？なのかなって思う時があるんですが、そこをはっきり説明が、今度求められるようなことになるかもしれないのでこうすることで、こうすることでっていうことが、やっぱり必要になってくるかなっていうこと。特にこれから来年から来年度から大切になるんじゃないかなという思ってます。質問ではないですけども、また要望でもあるんですが。そのところを、小学校、中学校でまた違うと思うんですが、特にその3校について、放課後子ども教室との関連で、そうことを感じております。以上です。

【こども教育課長】

はい、ありがとうございます。そちらの方、委員がおっしゃる部分は、教育委員会と学校との連携の下でしっかりやっていきたいとそうように考えてまいりますので、またよろしく願います。他にございますでしょうか。

はい、どうぞ。

【委員】

はい、あの各学校で、いろいろ工夫をして、学習活動をしてくださっていることがとてもよくわかりました。ありがとうございます。1点質問です。

各学校で、それぞれ主体的な学びということで、探究学習だったり、発信をするアウトプットをすることに力を入れていらっしゃる、そういった取り組みをしていらっしゃるというお話がそれぞれにあったんですけども、探求です。主体的に学ぶということの両論というか、セットとして、その学習だけではなくて、生活面においても、主体的に学校生活を主体的に過ごす。学校、さらには、学校の運営の中で子どもたちの主体性というのがどのように、実際考えられているのか、学校例えば学校の運営になんとか子ども参加という観点で、何かお見直しをされていること取り組んでいること、あるいは何か取り組もうと思っていられることなどありましたら、教えていただきたいと思います。

【中学校長】

はい、ありがとうございます。本校では、生徒会の子たちの考えをですね。できるだけ取り入れていこうということで、今年の事例でいえばカジュアルデイというのをやりました。私服で登校するというもの、こどもたちがぜひやってみたいということで、今年2回実施したということであります。今後、今まさに、制服を変えようかという話がありますので、そういったものについても、子どもたちの意見をですね、積極的に取り入れていけたらいいなと思います。あとまたいろいろと服装の話もですね、校風委員会中心にいろいろと話が出てますので、できるだけ多くの子たちの意見を吸い上げられるように工夫していきたいと思います。以上です。

【東部小校長】

軽井沢東部小学校ですけれども、軽井沢東部小学校の児童会活動の中で、子どもた

ちがこれやってみたいということになるべく実現できる方向で、考えて、今年やっております。先ほど、私忘れておりましたけれども。縦割り班の中で清掃、子どもたちの伝統行事。みんなで行きたいという話があった。じゃあどうやってやろうかっていうことを考えたりとか。あと、音楽会でもせっかく大正琴を習っているからみんなに聞いてほしいってというような子どもたちの願い。そこからスタートするような形をとっております。これからだと子どもたちのやってみたいとかを教師側の方でも敏感にキャッチしながら一緒に同じ方に向かっていきたいと思っています。

【中部小校長】

中部小学校は、意識的にやってきたことが3つあります。

1つは、職員なんですけれども、当たり前やってきたことを見直すというところですね。昨年度からやっています。教師が勧める、教師がお膳立てをしてやるのが当たり前になっていることってたくさんあると思うんです。そこをもう一度、その主導権を子どもに委ねたらどうなるかやってみたらどうなるかっていうことを進めています。2つ目です。それに関わるんですけれども、学校行事についてなんですけれども、これもやっぱり職員が進めることがたくさんあったんですけれども、運動会、音楽会ほか色々あるんですけれども、子どもが、例えば、司会をして進めるとか、計画段階から子どもに聞いてやっていくっていくというようなところも進んでいます。3点目は児童会や有志の子どもたちのグループが学校を変えとか、学校をこういうふうに進めていきたいということを話し合ったり、発信したりできる場と時間を作りました。具体的には朝の20分間の活動があるんですけれども、そこを今までは校長講話とか、いろいろなもの、かたいものが入っていたんですけれども、そこをちょっと子どもに渡して、児童会でこういうことをみんなやってみましょうとか、こういうルールを作ってみたんですけど皆さんどうですか？意見くださいとか、そういうことを子どもが発信して子どもが答える。そういうことができるようなことを進めています。

補足なんですけれども、来年度70周年行事についても、子どもたちが中部小学校の70歳の誕生日を祝うということで、子どもたちが進めるってということも企画しています。以上です。

【西部小校長】

西部学校ですけれども、こども主体性ということで、あのやはり実質的な活動なので児童会活動というのを活性化して行きたいなと思っております。学校作りに子どもが関わるといいなと思っております、今年度児童会でアンケートを取って、休み時間を5分伸ばして欲しいという結果が多く出ました。来年度の日程を考えるときに、ちょっと水曜日あたりを5分伸ばそうかなという風にそうやって、子どもたちの考えになるべく変えられるようにしながら、行けたらいいかなと思っています。以上です。

【委員】

ありがとうございます。すみません。もう1つよろしいですか。

生徒会活動、児童会活動で生徒さんからの意見を尊重されているということでした。この生徒会や児童会の活動っていうのが一部もちろん熱心に、積極的に意見を言える子たちっていると思うんですけれども、広くそういう活動に積極的に参加ができているわけではない広く生徒児童の意見とか困りごとっていうのをこう聞いて、それを活かすために、何か工夫をされていることとか、あるいはデメリット、難しいなと思っていることとかあったら教えていただけるとありがたいです。

【中学校長】

中学校としては、フォームを使っですね。アンケートを取るということは行っております。個人的には、来年、私のところにも直接子どもの声が届くような、そういうシステムができたらいいなということはちょっと今考えております。ちょっと具体的にはまだ考えておりません。以上です。

【東部小校長】

東部小学校ですけれども東部小学校は少人数による縦割り班、1年生から6年生それぞれが一人か二人というような人数でのグループになります。そういうところで、中ではなかなかものが言えないけれども、そういう提案でもとではしっかりと、リーダーシップを発揮できるというような経験を積むような形を行っております。

【中部小校長】

中部小学校です。中部小学校はやはり4、5、6年生の高学年の子どもたちが児童

会これまでやってきてやっぱりその子たちだけが進めている。いろんな意見があげられないというのやはり課題でした。で、これ、来年度からやってみることなんですけれども。1、2、3年生も児童会の一員として名を連ねるっていうところを先生たち考えて、子たちとやってみるチャレンジが始まります。どうなるか楽しみです。

【西部小校長】

西部小学校です。クラス会議、いわば話し合い活動なんですけれども、学級ごとにサークルを作って、一人一人が自分の考えを持てるってようなものがあります。もちろんパスしてもいいんですけれども、来年度ちょっとそのような話し合い活動ってものを各学級で活性化させたいなと思っております。でも、あくまでも手法ですので、根本的なところは中身が大事と思っています。以上です。

【こども教育課長】

はい。よろしいでしょうか。他に質問ございますでしょうか。はい、町長。

【土屋町長】

中学校なんですけれども、先ほど30日以上欠席で、いわゆる不登校に当たるところ50名強ということだったんですけど、学年別で例えば3年生何人いてそのうち通信制に進学したその子たちなのかちょっとその辺りわかったら教えていただければと思います。

【中学校長】

ぱっとすぐ出てこないの、また後ほどお伝え出来たらいいなあと思いますけれども、通信制の学校に通っている子たちの中には、通常に毎日登校している子も実際います。逆にあの不登校のお子さんの中には、やはり登校っていう選択肢ではなくて、アルバイト的なことをしながら、自立して行きたいという道を選んだ子もいますので、学年別では、ほぼ同じぐらいの割合というふうに均等で、考えていただければいいかなと思います。進路はイコール、通信制イコール不登校のお子さんが行っているっていう形だけではなくて、通常の毎日登校しているお子さんの中にも通信は年々増えているということでございます。以上です。

【土屋町長】

はい、ありがとうございました。不登校という言葉は、まあ全国的に標準語になっちゃってるんですけど、この言葉を使うのはどうかなとか思ってます。学習支援センターも今、方針としては学校に戻すっていう方針じゃないっていうのを聞いてますよね。なので、なんかこれ名前変えられないかなとか思ってますけど、例えば、在宅学習者とか、不登校って名前だけで悪いイメージがあって、軽井沢でも変えたらどうかと思いますが、まあいきなり教育長にこういう中で軽井沢の考え方みたいなものを出すといいような気がします。はい提案です。

【こども教育課長】

はい、ありがとうございます。またその辺も検討して進めさせていただきたいと思えます。他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、(3)第3期軽井沢町子ども・子育て支援事業計画について私の方から説明をいたしたいと思えます。お手元にあります冊子の方をご覧くださいと思います。第3期軽井沢町子ども・子育て支援事業計画になります。

表紙の次の次ですね。目次になります。こちらの方をご覧くださいと思います。目次になりまして、第1章計画の基本事項、第2章計画の基本方針、第3章子ども・子育て支援の概況、第4章子ども・子育て支援事業計画、第5章基本施策の展開という形の第5章の部分で、今後第3期の計画の策定をしております。2ページ下のページ2ページをご覧くださいと思います。こちらにつきましては、計画の位置づけですが、本計画の子ども・子育て支援法の基本理念を踏まえ、当法の第61条に基づく計画となっております。5ページの下の方にあります。その計画を踏まえまして、令和2年度から今年度までの5か年で第2期が終了となります。来年度令和7年度から令和11年度までの5か年を計画期間とする第3期の軽井沢町子ども・子育て支援事業策定に向けて、昨年ですね、令和6年2月に子どもワークショップ、3月に就学前児童及び小学生児童の保護者にアンケート調査、10月に子ども子育てワークショップ、今年の1月になりますが、パブリックコメントを実施いたしました。今年度子ども子育て会議をですね3回開催し、この本事業の協議を重ねて会議におきまして、委員よりいろいろご意見いただきながら、承認をいただき今回この冊子という形になっております。

8ページをご覧くださいと思います。主な事業といたしましては、そちらに記

載してございます9ページまでの15事業を中心に各課、民間団体、関係機関等々連携し実施してまいりたいと考えております。9ページの下の図ですね。こちらの方になります。こちらがその15事業のイメージ図、このような形で細部に亘り色々な事業の中をより今後展開して行きたい。そのような形になっております。12ページをお願いいたします。こちらにつきましては、第2章の基本方針になりますが、第1期、第2期を継承し、大地に根をはり健やかに育つ軽井沢の子どもたちとしてさまざまな部分を今後展開して行きたいと考えております。それ以降になりますが、保護者アンケート、子どもワークショップ22ページから69ページまで掲載してございますので、こちらにつきましては、また後ほどご覧いただければと思います。

70ページをお願いいたします。こちらからですね。先ほど申しました子ども子育て支援事業計画15事業につきまして、継続して実施している事業、またですね新たに実施する事業を掲載してございます。こちらを元にですね今後の5年間を目標値として、各課関係機関等含めてですね協力しながら実施してまいりたいと考えております。なお、この本計画につきましては、この4月にですねホームページに掲載し、広報誌にも出す予定となっております。また、概要版につきましては恐れ入ります本日もちょっとお手元にはないですが、4月の中旬頃を目途にですねまた委員の皆様等々にお配りしたいというふうに考えております。以上です。

こちらにつきまして、何かご質問等ございましたらお願いしたいと思います。

【委員】

この計画がすみません。3ページの、今回のこの子ども・子育て支援事業計画というのがこの3ページのグラフのような表のこの赤い部分に当たるものという理解で間違いないですか。

【こども教育課長】

そうです。大丈夫です。

【委員】

そうすると、この計画が対象になっているのが小学生までということのようなんですけれども、今回の計画の他に、中学生、高校生を対象とした町の支援計画なんか別途あるか教えていただけますか。

【こども教育課長】

現在はですね。その部分はあの大きな計画がございませんので、その下のですね
その他計画は努力義務になりますが、中学生から就労までの子ども若者計画というの
はこちらの方は今後ですねちょっと軽井沢町としても、どのようにしていくのかとい
うのは関係各課と話し合いながら進めていきたいという形に考えています。

【委 員】

是非お願いします。

【こども教育課長】

はい。他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら続きまして（４）軽井沢オープンダースクール（仮称）ついて、こ
ども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係の金井より説明いたします。

【軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

はい、改めましてよろしくお願いします。着座のまま説明させていただきます。軽
井沢オープンダースクール（仮称）についてということでよろしくお願いします。お
手元のクリップ止めの資料をお願いいたします。こちらは当日の会議資料となりま
す。去る３月７日金曜日、第一回目となります設置準備会議をくつかけテラス中軽井
沢図書館で開催いたしました。当日はどなたでも傍聴できるように公開とさせていた
だき、一般の方１４名、報道機関４社の方々にご参加いただきました。会議についま
しては、委員の皆様は今後議論いただくうえでのバックグラウンドとしまして軽井沢
町の教育環境について説明させていただきました。当日参加いただいた委員１８名の
他、文部科学省学びの多様化学校及び夜間中学それぞれのご担当者、また長野県教育
委員会のご担当者様から、制度の説明、これまでの取り組み等についてご説明をいた
だき、委員の皆様と質疑等を含めた意見が交わされました。主な議題はお手元の資料
のとおりですが、設準備会議を令和７年度に合計６回、プラスアルファということで
予定しております。開校までの設置準備会議のスケジュールを提示させていただきました。
また当町が目指す軽井沢オープンダースクール（仮称）のスクールコンセプト
及び学びの多様化学校、夜間中学設置に向けたアンケートについて提案をさせていた
だき、委員の皆様からのご意見等もいただきました。いただいた意見等含め、先生た

ちの持論のそれぞれの意識改革も含めた既存の公立学校のこれから。また、今後設置する軽井沢オープンドスクール（仮称）のあり方を重視して行き、児童、生徒、保護者からの意見とアンケートを実施することで意見を収集していきたいと思っております。また、詳細は未定ですが、ワークショップのようなものも実施していきながら意見を聞いていきたい、そのように考えております。引き続き、内堀教育推進アドバイザー、小中学校の校長先生、本設置準備会議の座長でもあります信州大学の荒井先生、そして長野県教育委員会と連携を取りながら長野県初となります設置に向けて進めてまいりたいと、そのように思っております。今後、会議の報告等議事録につきましては、町の公式ホームページ等でもアップして行きたいとそのように考えております。説明は以上となります。

【こども教育課長】

はい、（４）番のご質問等、ご意見等ございましたら、お願いしたいと思います。

【委員】

スケジュール案を拝見しています。スケジュールワークショップを実施されて、おそらくお子様とか、保護者、町の方のご意見を集められると思うんですけども。もっとそのその場で学ぶであろう子どもたちとか、あるいは教育を受けてこられなかったその機会がなかった子どもたちが、また学びたいと思えるように、学びやすいようになるためにもっと意見を聞ける場を検討していただきたいと思います。どうしても今、このオープンドスクールが対象としているお子さん、方々って、大きな声で意見を言ったりすることが難しい方だったんじゃないかと思います。なので、単発でアンケートで意見を聞いたり、ワークショップのような形で、その時意見を出してくださいって言うてもなかなかいろんな悩みがあったり、要望っていうのをその場ですぐ出すのって、すごく難しいと思うんです。まず、関係性が出来てからでないと、聞き取り出せないと思いますし、なので、今のこの計画のどういう段階で、どういう計画で進んでいるのかということを伝えたり、そして意見を聞いて、またそれをフィードバックしてという形でできれば、継続的に相互でコミュニケーションができるような意見を聞く機会というのをご検討いただけないかなと思います。あの要望です。以上です。

【こども教育課長】

はい。貴重なご意見ありがとうございます。はい。事務局の方で、そのような双方でコミュニケーションとれるような体制、どのようにしたいのかということも、実は委員の中に保護者の方、町関係者の中でいらっしゃいますので、そのような方へも協力依頼という形で、進めていきたいと考えております。ありがとうございます。

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは続きまして（５）その他に移らせていただきます。

【生涯学習課長】

貴重なお時間を大変申し訳ございません少しいただきたいと思います。日頃より生涯学習活動に対しましても、それぞれのお立場でご協力いただいていることを感謝申し上げます。生涯学習課から２点ほど報告とお願いをさせていただきます。

まず１点目ですけども、旧三笠ホテルの関係になります。旧三笠ホテル重要文化財の保存修理工事が今月３月上旬に終了しております。今後は外構工事エレベーター棟などの工事が６月末で竣工となる予定でございます。つきましては、リニューアルオープンにかかる記念式典を現在のところ１０月１日に開催したく、準備を進めているということで報告をさせていただきます。

続きまして２点目になります。現在進行中の案件になります。庁舎改築周辺整備事業は、この度町役場庁舎と中央公民館機能を備えた仮称になりますけども、交流センターを一体的に整備する方針ということで決定いたしました。計画を進める過程で、教育委員の皆様への意見調取をはじめ、中高生へのアンケート調査や各地区へ出向いての説明会議など、あらゆる手法で住民や関係者の意見聴取を実施し、この度事業の基本計画を策定したところであります。本計画の住民説明会を去る、２月２８日と３月１日にこの中央公民館の方で実施しまして、そのあと３月１４日までパブリックコメントを募集したところ、１３名から５９件の様々なご意見を頂戴し、担当の新庁舎周辺整備課から回答をしたところでございます。この施設の基本的な方向性として、今までの公民館活動に加えて、若者や別荘所有者など、今まで利用されていなかった方にも利用していただくため、誰もが気軽に立ち寄って、交流が生まれたり、あるいは街づくりに参画できるよう参画できるような仕組みを考えています。つきましては、令和７年度から建物の基本設計に入っていく中で、教育委員の皆様は元とよりですね、学校現場になってます学校運営に関わる皆様、校長先生たちになりますけ

ども、教職員、児童、生徒また保護者の声などを聞くようなことがありましたら、遠慮なくですね、町の教育委員会もしくは新庁者周辺整備課にお声を届けていただければと思います。この施設50年、100年使用する予定の建物です。

可能な範囲でできるだけ良い施設にしたいということで、頑張っておりますので、皆様のご協力をお願いしたいというふうに考えております。生涯学習課から以上です。

【こども教育課】

はい、ただいま報告がありました件ですが、何かご質問等ございましたら。よろいでしょうか。はい。それではすいません全体を通してご質問、意見等ありましたらお願いしたいと思います。

はい、町長。

【土屋町長】

はい、冒頭、宮本教育長からの教育DXで、ICT教育ということで。おしゃっていただいて。その辺のバランスってのは、非常に大事なんだと思ってまして、ここで意見とかではないんですけれども。あのご存知の方も多いと思うんですけど、ICT教育の先進国フィランドなんか90年代からデジタル教科書を入れてて、これが読解力がかつては国際学習到達度調査で、1位だったのに二十何位に落ちてるということで、今年度から全部紙の教科書に戻したと言うニュースもご存じの方多いと思うんですけども、このあたり、日本はもうどんどんそれを進める方向で一気に行っているわけなんですけれども、ちょっと注意しながらやっていかないといけないんじゃないかなっていうことを非常に感じてまして。今、小学生から1人1台タブレットを配りますけども、シンガポールなんかはもう2、3年に小学生以下には配らないという方針を変えたりですね。韓国なんか導入決めたんですけど、32%しか使わないとか。ほとんどその教師と生徒のコミュニケーションを促進するものではないというような意見が多く出てきたりですね。先ほどのフィンランドの例なんかでも、長年やって、子どもの集中力が低下して、短気になるとかいうという科学的データも出たりしてまして、このあたり非常にどうしても、国の方針とか出てくると思うんですけども、ちょっと注意深くいつも頭に置きながら、検証もできればいいなと思ってます。以前、県の教育の曾根原次長と話し、今度松本の教育長に選出されますけど。曾根原

次長もこのニュースはよくご存知で、自分もそこは非常に大事だと思ってるってことをおっしゃってましたので、長野県としては、そこをきっちりと考えて進めていくと思うんですけども、軽井沢は軽井沢としても、このＩＣＴ教育、すごい便利でいい部分は非常にあると思うんですね。理科なんかも映像でわかる人、英語も発音が出てくる人がですね。こう見てわかりやすいってのもありますけど。一方で、先生方がうまく使いこなせるかとか逆にさっきも言いましたけど、それに頼りすぎて、指導力が落ちるとかっていうことも懸念されてますので、このあたりは非常に意識して進めて行っていただければと思います。これは意見というか、要望というか、ちょっと先を見てですね、あまりここ偏りすぎないことを意識しておいた方がいいんじゃないかなと思ってます。以上です。

【こども教育課長】

ありがとうございました。他に何かご意見、ご質問がありますでしょうか。よろしいでしょうか。はい、それでは以上をもちまして、第１０回軽井沢町総合教育会議を閉会といたします。長時間ありがとうございました。